

# 野生獣被害防止対策の実践による 被害額の軽減

東近江農業普及指導センター

## 【普及活動のねらい・対象】

日野町では、農作物の獣害が断続的に発生しており、令和元年度の被害金額は 12,682 千円と依然として被害削減が課題となっています。中でも鳥居平集落は 14 年前にシカ、イノシシ用の防護柵を設置し対策をされてきましたが、イノシシの突破やサルの出現が増えるようになり被害が再発していました。

そこで、再発防止のため、集落住民を対象に、昨年度作成された被害防止計画に基づき、イノシシ、サル対策の強化対策が集落ぐるみで的確に実践されるよう支援しました。

## 【普及活動の内容】

イノシシ対策として、昨年度 1.8km の柵を設置し、その前後に 2 回集落役員と当センター、町で現地を巡回し、柵の設置位置・施工法などを打合わせました。今年度は 4.4km の柵が設置され、設置前に 2 回関係機関と打合せをするともに、施工期間中は 2 週間に 1 回現地巡回し、解決策を助言しました。設置後も集落役員と巡回し、藪の刈り払い、既存の柵の補強、脅し機器の設置、目隠しシートの設置など、具体的な方法を助言しました。また、昨年度設置された柵についても見回りをを行い、問題が無いことを確認しました。



写真 サル対策研修会の様子

サル対策については、サルの追払いが確実に実践されるよう研修会を 3 回実施しました。そこでロケット花火専用発射台を使った実演や、高木の伐採、菜園対策の具体的な防除技術を説明し、対策への理解を進めました。また効率的な追払いとなるよう、体制整備とサル出沒の記録をつけるよう助言しました。

## 【普及活動の成果】

6.2 km の柵の設置と様々な防除技術の実践により、今年度イノシシ被害はありませんでした。サル対策については追払い体制が整い、ロケット花火専用発射台が 20 台導入され、出沒記録も 6 名が記帳されるようになり、複数でのサル追払いが 12 月から始まっています。同じような状況が他の集落でもみられることから、今後は獣害対策モデル集落として、地域へ波及する活動を展開していきます。

### ◎対象者の意見

今年は防護柵が完成し、水稻被害が無かった。今後は共同菜園に取り組むなど、獣害対策を行いながら集落を活性化させていきたいので、引き続き支援をお願いしたい（集落役員）。